

# ■ 津島駅周辺における社会実験(第1弾)について

つしまちぐらし ~歴史あるまちによりそい、休日も楽しめる、歩いて暮らせるまちへ~

(目的)「つしまちぐらし」につながる機能を検証し、将来の市の正面玄関(まちの枢要となる場所)となる駅前整備に繋げる。

**市民が、好きになる・思い出となる・市民が誇り(プライド)を持てる駅前空間を創っていく。**

## 1. 津島駅周辺の現状 (H29 乗降客平均14,281人/日)

- 駅は、名鉄やバスの乗降交通機能(キス&ライド、パーク&ライド、サイクル&ライド)に特化している。
- 駅周辺には、マンション等によって比較的人口密度は高いものの、駅前には、暮らしの価値を高める機能が無い。

### <<平日の特徴>>

- 朝夕は、駅東側の官公庁へ通勤するサラリーマン、通学の学生が多く混雑している。また、夕方には、学生が居場所なく滞在する動きもみられる。

### <<休日の特徴>>

- 名古屋方面への買い物客、部活の学生、津島への観光客等が見られるが、駅に滞在する人はおらず、通過するのみ。

空間と機能

### ■津島駅周辺の現状



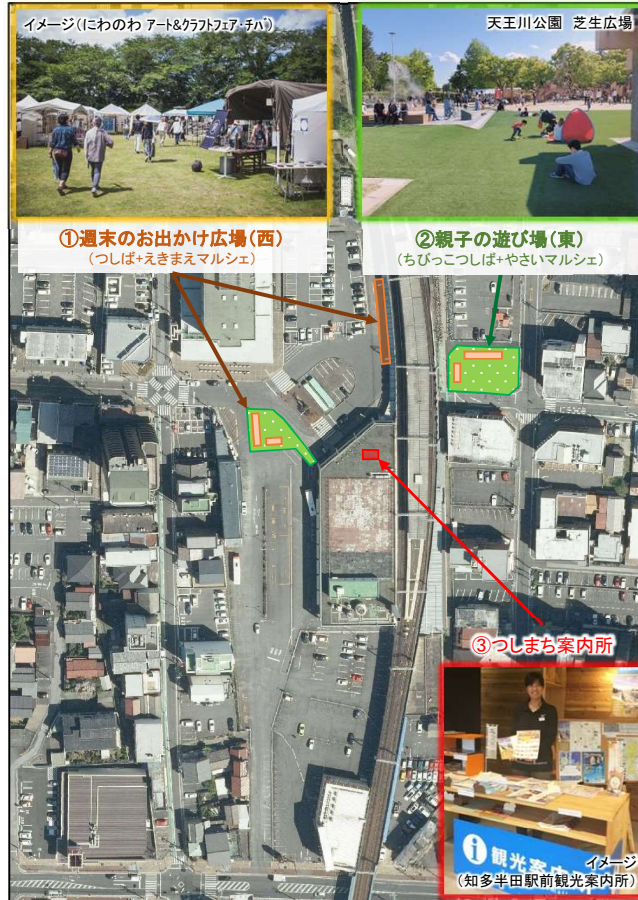
## 2. 検証する内容 (第1弾)

- **社会実験(第1弾)**では、将来の津島駅周辺における暮らしの質を高めるための「空間」や「機能」の可能性や問題点を探る。

- ① **地域住民が「週末のお出かけ場所」にしたい空間**  
→ つしば(芝生広場)+駅前マルシェ(飲食、物販等)
- ② **地域の子供たち、子育てファミリーが楽しめる空間**  
→ ちびっこつしば(芝生の遊び場)+とれたてやさしいマルシェ
- ③ **津島の“まち”を楽しむための案内施設**  
→ コンシェルジュによる観光スポット、お店、御朱印等の紹介

⇒ どの程度の需要があるのか、どのエリアの人々が利用するのか。さらにはどのような空間、サービスが必要か。改善点、問題点を抽出。

### ■社会実験(第1弾)の内容



## 3. 駅周辺整備イメージ(仮説)

- 市の正面玄関として、市民が好きになる、思い出となる、そして誇りを持てる駅前空間に発展し、「つしまちぐらし」の拠点とする。

### (1)地域住民や子育てファミリー等が楽しめる空間

- 芝生広場、木陰の広場、週末マーケット等
- 子育て支援施設、子供の遊び場、図書館等

### (2)駅利用者(サラリーマンや学生等)が気軽に滞在できる空間

### (3)津島の“まち”を楽しむ起点となる案内施設

- 観光客だけでなく、地元の方々への案内や活動の起点(歴史・観光、お店、レンタル自転車、御朱印巡りなど)

**空間がもたらす機能からアクティビティがもたらす価値へと発展**

価値と持続性

### ■津島駅前整備イメージ(仮説)

